

No!薬



A班:花井、光、谷口、渡邊

概要

- 有機リン系農薬の空中散布による慢性毒性が懸念されている。群馬県では有機リン系農薬の空中散布地域で近隣住人が相次いで神経や精神に異常をきたしたとする例が報告された。神経・精神症状の原因は突き止めるのが困難だったが、近年診断技術の向上などにより有機リンの慢性毒性の可能性が明らかになりつつある。人体が化学物質を取り込むのは8割が肺からであり、住宅地での農薬の使用の対策が求められる。

被害の現状

□ 人に対する被害

(人)

		15年	16年
死亡	散布中	1	1
	誤用	5	1
	小計	6	2
中毒	散布中	17	39
	誤用	3	15
	小計	20	54
	合計	26	56

□ 喘息患者やアトピー患者、化学物質過敏症に大きな影響を与える

□ 神経障害

うつなど

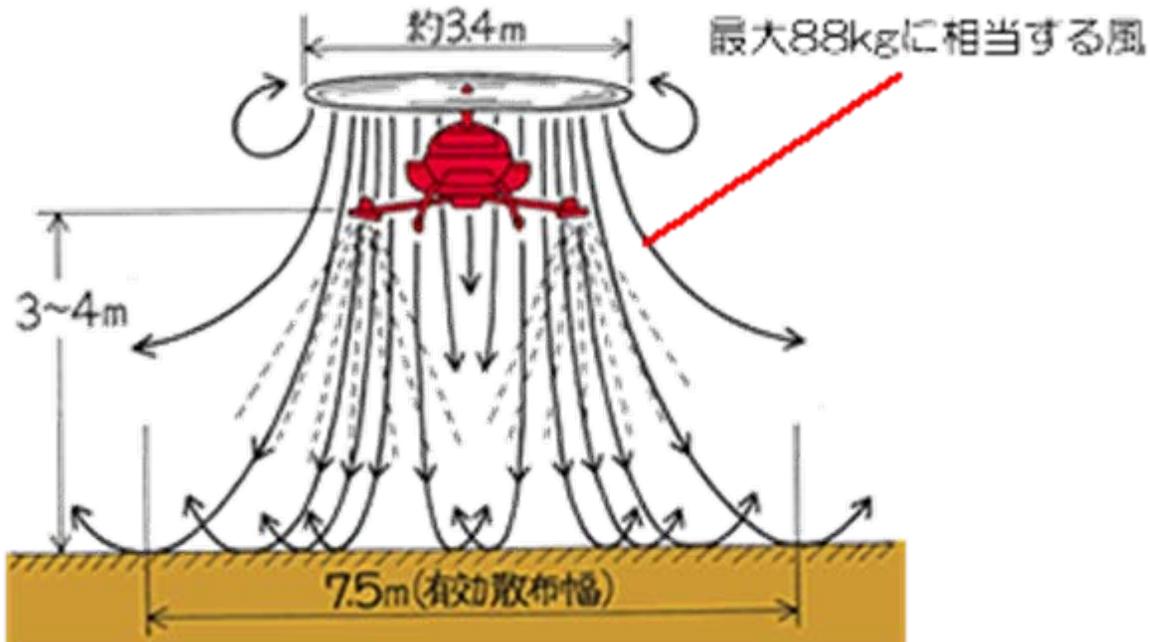
→今まで神経障害は農薬が原因と考えられていなかった。

被害の原因

- 有機リン系農薬は費用対効果が高い
- 無人ヘリによる空中散布

ダウンウォッシュ効果

メインローターからの吹き降ろし風

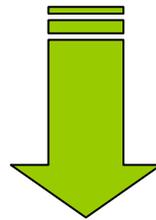


現状の対策

- 群馬県 へり散布自粛要請
→ 散布自体はなくなる
- 食品衛生法の改定
→ 残留農薬の基準だが散布は触れていない
- 企業 飛散防止シート発売
→ 人体への影響は防げない

政府の対策

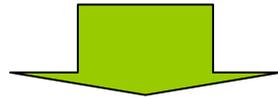
- 農水省 「農薬の飛散による周辺作物への影響防止対策について」通達
- 農水省 92年 環境保全型農業を柱とする農業政策
→農薬の使用を抑える・・・21%の農家のみ



根本的な解決が必要！

我々の提案

- 住宅地付近では農薬を使わない有機栽培を行う。
→安定した供給先の必要性、外部性の内部化



地産地消の農業

提案

- 地域型生協（生活協同組合）
地域の住民が消費者組合を作り、農家に有機栽培を提案、その農家からのみ購入。互いに需給システムを構築する。

地産地消

□ 地域の消費者ニーズに即応した農業生産と、生産された農産物を地域で消費しようとする活動を通じて、農業者と消費者を結びつける取組。(農水省)

□ メリット

□ 鮮度が高い

□ 輸送距離が短い

→ 低コスト、低エネルギー

□ 地域活性化

□ 消費者と生産者の結びつき

• デメリット

• 排他的になる

• 寡占の恐れ

メリット・デメリット

□ 住民

□ メリット

農薬被害がなくなる

有機野菜を購入できる

地域の活性化

食品の安全性

□ デメリット

有機野菜の価格

□ 農家

□ メリット

安定した供給先

収入増

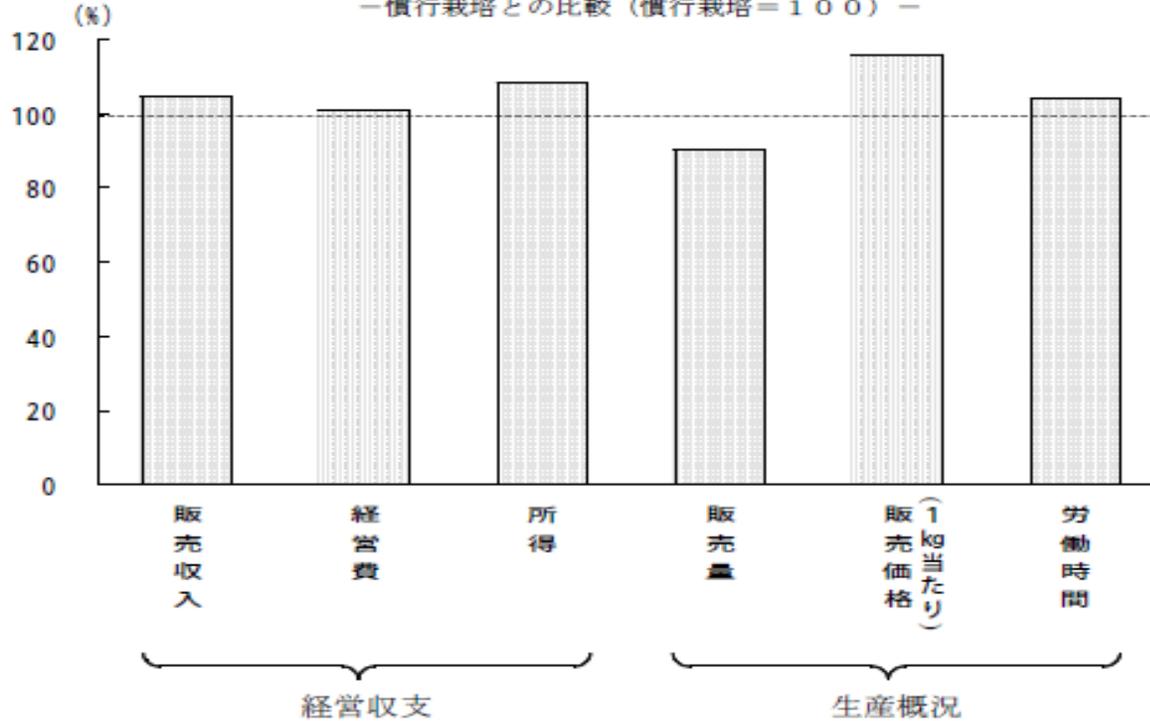
地域の活性化

□ デメリット

生産性の減少

農家のメリット

図1 環境保全型農業（平成10年産野菜）の10aあたり経営収支及び労働時間の概要
— 慣行栽培との比較（慣行栽培＝100） —



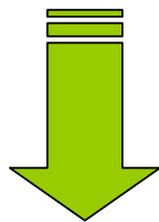
- 10aあたり販売量は10%下回るが、1kgあたり販売価格が16%上回る。
- 10aあたり所得では慣行栽培に比べて8%上回っている

結論

- 地域住民による消費者組合で地産地消を目指す



地元から生産者を選び購入
地域の結びつき



地域活性化
有機農業の普及
近隣住民へ配慮した農業へ

参考文献

□ 農林水産省

<http://www.maff.go.jp/>

農薬の航空散布の現状と環境汚染問題

http://inasaku.or.tv/kenkyujo/nouyaku_1.pdf

農薬の使用に伴う事故および被害の発生状況について

<http://www.maff.go.jp/nouyaku/15jiko-higai-list.htm>